

僕は、今回のテーマである「農村ツーリズム」という政策は都市に住む人たちに中山間地・農村の役割を再認識してもらい、U・I ターン等定住促進やそういった地域の産業振興、女性の雇用といった地域開発につながるということで、自分の専攻している地域経済学という学問を今後学んでいく中で良い勉強の場、そして経験になると思いこの事業に参加しました。はじめの説明会で発表はグループごとに行われるとの説明があり、僕は成り行きで第三班のリーダーとなりましたが、これまで何かをまとめるという経験をあまり率先してやったことがなかったので正直、不安な気持ちでいっぱいでした。リーダーとしての仕事もただ班員への情報通達、発表までの準備の計画、指示だけではなく、今回は実際に島根県内の農村ツーリズムを実施している場所に事前調査に行くという計画もあったので、担当者との事前のアポイントメント、教授とのやりとりもあり予想以上に責任のある役割となりました。

そして、なんとか資料の作成、発表の準備を仕上げ、中国へ旅立ちましたが、実際の発表では初めてのパワーポイントを用いた発表だったということもあったからか、本番では事前に用意した原稿に頼った発表となってしまったこと、また、通訳をはさむということを考えていなかったため、あらかじめ設けられていた制限時間の10分を大幅に超過してしまうような結果となってしまいました。それに比べて中国の学生の発表は原稿を読まず、身振り手振りも加わって内容も簡潔にまとめられたもので、発表の内容はもちろん、その姿勢から多くのことを学ぶことができました。

翌日以降は中国の伝統的な農村や万里の長城、ワンフーチン、天安門広場などの観光地に中国の学生と訪れました。僕自身初めての海外旅行ということで、日本ではまず見ることはないだろうと思われる交通事情や、人々の生活ぶりに驚いた場面が多くありました。特に大学やお店の前などいたるところで個人が食べ物等を販売しているところを見て、中国は自由な国だなと思い、それまで日本で暮らしては過ごしやすいものだとばかり思っていました。初めてその時日本は規制が多すぎて何となく息苦しいという風にも感じました。

また今回は交流事業ということで中国の学生と積極的に会話しようと決めて臨みました。僕自身、島根大学で行われている留学生との交流会にも参加したことがあったのでそれほど緊張することもなく、決して英語に自信があったわけでもありませんでしたが、自分から話しかけたり、何気ない日常会話等コミュニケーションをとることもできたので、今回の交流事業は、新しく学ぶこと、自信につながったことなど多くの経験ができたので非常に満足できるものとなりました。



中国人民大学学生との写真